

令和5年3月4日

奈良保育学院

学院長 中室 雄俊 様

学校関係者評価委員会

委員長 大原 敏敬

学校関係者評価委員会報告

令和4年度自己点検・自己評価報告書の結果に基づき実施した令和4年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告いたします。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 谷口 偉 (奈良市立幼稚園協会会長、西大寺幼稚園長、光が丘幼稚園長)
- ② 辻村 泰聡 (極楽坊あすかこども園長)
- ③ 大原 敏敬 (奈良県専修学校各種学校連合会長、大原和服専門学園理事長)
- ④ 副田 珠美 (奈良保育学院三友会長)
- ⑤ 斎藤 くるみ (奈良保育学院第27期卒業生)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

- | | | |
|---------|------------|------------------------|
| 第1回 委員会 | 令和4年 7月16日 | (会場：白藤学園 やわらぎホール) |
| 第2回 委員会 | 令和4年11月19日 | (会場：白藤学園 奈良保育学院 実習演習室) |
| 第3回 委員会 | 令和5年 3月 4日 | (会場：白藤学園 やわらぎホール) |

3 学校関係者評価委員会報告

別紙のとおり

学校関係者評価報告書（最終）

I 重点目標について

1 重点目標1について

重点目標	<p>1. 卒業学年全員の幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得並びに関係分野への就職</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学外実習の事前事後指導、進路及び学年担当教員による適時の学生への関わり、専任全教員の情報共有、様々な教育活動等を通して、学生の就職に関する意識の向上を図る。 ・ 幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得率100%と関係分野への就職率100%を目指す。
学校側の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年担当制をとり、実習担当・進路担当教員と連携しながら、学生一人一人への日常からの細やかな関わりを実施している。 ・ 教員間での情報共有を徹底し、学内外での教育活動を通して学生自身が就職に関する意識を向上できるように促している。 ・ 学生の記述力向上に努めるため、実習担当教員を中心に、学外実習や就職に向けて、履歴書や実習記録の書き方等を指導している。その他、作文試験、漢字テスト、就職試験、レポート課題等を定期的実施し、希望の就職先に就職できるよう支援している。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の思いを出すことが苦手な学生に対しては、就職についても学生が主体的に就職活動を行えるように、就職相談を丁寧に行い、学生と継続的な関りをもっていくことが大切である。 ・ 自分で声を発し、苦手意識を克服して、受け身の行動から主体性や自立性をもった学生をどのように育てていくかが今後の課題となる。 ・ 資格取得率や就職率100%を目指すことは大前提であるが、現代社会の多様性の現状から鑑みると必ずしも、(直接的な) 幼児教育関係分野への就職にこだわらなくてもよいのではないかと。それよりも、本人の適性に合った分野の仕事についてアドバイスしてやって欲しい。無理強いしてしまうと、本人が自信を喪失し、心身の状況が悪化する場合もある。 ・ 就職は学生の第一希望に行けているのか。4年制大学生はもっと早い時期から就職活動を行っている。学院でも、もう少し早めに就職活動を行っていく必要がある。

2 重点目標2について

<p>重点目標</p>	<p>2.第三者評価を受審し、職業実践専門課程認定校として更に充実した教育活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第三者評価を受審することにより、学校運営・教育活動の質・水準・内容を明確にするとともに、教育の質の保証・向上を図る。 ・ 学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会を引き続き開催し、教育課程の改善及び学校運営力の向上を図る。
<p>学校側の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第三者評価の基本資料となる自己評価を、評価研究機構が定めた評価基準と評価方法に基づき行い、自己評価報告書を作成する。 ・ 学校関係者評価委員会は、関係機関と連携し、自己評価の結果を基に学校関係者評価を実施・公表した。また、教育活動その他学校運営の改善に向けた取組を行った。(令和4年7月16日・11月19日・令和5年3月4日・委員会を年3回開催) ・ 教育課程編成委員会は、関係機関と連携し、学内組織である各検討委員会の協議を基に教育課程に関わる事項について審議し、教育課程の改善に取り組んだ。令和3年度までは、年2回委員会を開催していたが、令和4年度からは令和4年6月27日・11月7日・令和5年2月20日の年3回開催し、今年度の教育課程に関することはもとより、次年度の教育課程の編成についても見通しをもって協議することができた。
<p>委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部の意見を取り入れながら、また、外部の意見を受け入れるということは、労力を伴い大変なことだと思うが「学院をもっと良くしていきたい」という前向きな気持ちが伝わってくる。 ・ 外部の意見を聞こうとする姿勢により、教育の質が高まっていく。色々な意見を聞くことは大切である。 ・ (学校関係者評価委員が) 学院の授業参観や学院で学生が学ぶ施設を見学したことにより、教育上の必要性に対応した施設整備を適切に行っていることを確認できた。 ・ 今年度の取組内容を次年度も継続して行っていくことを確認した。

2 重点目標3について

<p>重点目標</p>	<p>3.実践力の向上に向けた保育学院と系列幼稚園・保育園との連携推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもを取り巻く環境が変化する中で、保育ニーズは多様化、複雑化しており、豊かな人間性と実践力、応用力を身に付けた資質能力の高い学生の育成を目指す。 ・ 学園内に幼稚園、保育園(こども園は、令和5年4月1日からの開園準備中)といった機能の違う2つの園をもつ本校の特色を生かして、子どもに直接触れ合う中で学ぶ。
<p>学校側の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育実習や保育実習の期間だけでなく、学院行事や園行事等双方の情報を積極的に共有し、学生が計画的に園児と触れ合うことのできる機会をもつことを通して、実践的な保育技術等の習得及び向上を図った。例えば、夏祭りのコーナー担当や運動会当日の道具準備やサポー

	<p>トに参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花いっぱいプロジェクトでは、ただ単に「プランターに植えた花を学生が園児にプレゼントする」のではなく、学生が園児と一緒に苗植えをして、花を育て、互いの学びを深めている。 ・まだまだ、行事だけの連携が中心となっているので、次年度からは、カリキュラムの中に「保育基礎ゼミ」「保育専門ゼミ」を取り入れ、日常的に学生が園児と直接触れ合う時間を設定し、継続的に実践力を身につけるようにしていく計画を検討している。 ・長期休業期間中や放課後に系列各園の保育補助の業務を本校の学生に優先的に紹介し、実務経験や即戦力を身に付けたり、各園のボランティア活動に積極的に関わったりすることを通して、本校と園の連携を深め、意欲・自主性のある学生を育成していくことができるようにした。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学院の今年度の取組のように本園でも預かり保育を中心に、資格がなくても（学生に）保育補助として来てもらっている。 ・本園でも教育大の学生や一般で応募された方に保育補助をお願いしている。 ・実習以外でもこのように保育補助をすることは、学生にとっても実践力が身に付いてよいのではないか。 ・学校側から園でのアルバイトを紹介していただいたことで、就職も視野に入れて「自分がこの園で働けるのか」を見極めることができ、就職に繋がった。 ・このような経験が受け身から主体性になる。 ・今年度の重点目標3の取組は、学生の保育現場の仕事理解にも繋がり実践力を育むポイントとなっていく。

2 重点目標4について

重点目標	<p>4. ICTを活用した学生指導、授業展開の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭養成課程の科目では、ICT機器の活用が求められており、授業計画にICT機器の利用を取り入れ、ICT機器への習熟を図る。 ・新しい学生管理システムを導入し、学生指導に活用し円滑な単位取得を目指す。 ・新型コロナウイルスの感染拡大状況に応じて、オンライン授業やハイブリッド型授業を展開し、学生の授業保障を図る。
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・演習科目では、ICT機器を使った授業を受講するだけでなく、活動記録、資料作成、発表などにタブレットPC等のICT機器を積極的に活用して授業参加ができるような授業展開をした。例えば、実習後に実施した「実習報告会」ではICT機器を活用し、プレゼンテーションを行い、自らの実習中の学びを他へ広めることができた。 ・学生管理システム「BLEND」を使い、学生・教員・保護者が履修状況や単位の取得状況をデータ把握したり、履修カルテとして学びの振り返りをしたりする中で、学修内容の把握を円滑に行った。 ・今年度からは、BLENDを活用した「欠席連絡」に加え、今まで、紙媒体を使用しアナログで報告していた「健康チェック」についてもデ

	<p>ータで入力するようにし、学生の利便性だけでなく、教員間の情報共有を図るようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大状況に応じて、対面授業だけでなく、オンライン授業やハイブリッド型授業も行った。年度初めの感染拡大期に濃厚接触者となり自宅待機を余儀なく命じられた場合も学院のタブレット PC を貸与するなど、オンラインツール等を活用し、いつでもどこでも授業を受講できる環境を整え、学生の学びを止めないようにした。 ・教員による施設実習訪問に関して、コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために施設への訪問を見合わせなければならなかった事案や施設実習前の施設側からの学生へのオリエンテーションにおいても、ICT機器を活用し、オンラインでリアルタイムに打合せなどを行うことができた。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的にICT機器を活用した授業展開をいただいているので、保育現場でもパソコンを使いこなすことができるようになることを期待する。 ・ICTはペーパーレス化にも貢献する。 ・現場では、書類の作成が効率化される。(例えば)ドキュメンテーションで行事の写真データを取り込み、保護者との情報交換のツールとして活用するなど、最低限パソコンのスキルは、今後も必要である。 ・一方、保育職はICTだけではなく、人が人として繋がる仕事である。現場目線では、ICTの活用力を身に付けて現場に来て欲しいがICTの活用と同時に文字離れによる文章力の低下や人と人との対面を大切にするためにも「ハイブリッド型」にしていかなければならないであろう。 ・「デジタルネイティブ」の学生、すなわち若手から力をつけて現場に入っていくと、動画の編集などでも現場で活用できる。 ・ICTの活用はよいが、職場の文化も大切にしていくことも学ぶ必要がある。(勤務先への欠席連絡をLINEでする職員もいる。)

2 重点目標5について

重点目標	<p>5. 学生に対する各種支援活動(中途退学者防止や就職支援活動等)の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員が、学生の「生活不適應・修学意欲低下」や「学力不振」、「心身耗弱」、「経済的困窮」等の状況を早期に的確に把握し、相談・支援を行い中途退学や休学の未然防止に努める。 ・卒業後の早期離職者が出現しないよう、在学中に個々の適性に合ったきめ細かな就職指導を行う。
学校側の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が学生と密に関わり、学習面・心理面・生活面の様子を把握するとともに、タイムリーできめ細かな相談に応じることができるよう、チューター制度及びクラスアドバイザー制度を設け、丁寧に個々への対応を行うよう心掛けた。 ・学生の状況や課題等を常に教員全体で情報共有するために、毎朝、授業前に職員朝礼を行い教員が一丸となって学生の対応ができる体制

	<p>を構築している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の状況に応じては、保護者とも連携し、学生本人だけで課題を抱え込んで悩むことがないようにサポートしている。 ・資格取得だけに限らず、学生が各自の将来像や職業観を明確にもって教育、保育、福祉等の各現場に就職できるよう支援している。また、就職担当教員が中心となり、本人の強み・弱みを生かした職場に就職できるようにきめ細かにアドバイスを رفتり迅速な対応を رفتりすることで、学生が安心して就職できるように支援している。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の状況や課題を教員全体で情報共有するための体制が適切に行われている。 ・今後も状況によっては、保護者との連携も大切である。 ・実際、現場に就職してくる保育者の中にも課題を抱えている者もいるので、周りのサポートが必要な状況がある。例えば「発達障害」のある学生への早期からの支援も必要であろう。 ・コミュニケーション能力は、保育の専門職では絶対に必要である。普段の授業の中にもチームビルディングやアイスブレイクなどを取り入れ組織力やコミュニケーション力を高め、「仲間の一員である」という認識を持たせることも効果的である。 ・就職指導において、入学時の志と現実のギャップがある場合もあるので、必ずしも「幼児教育関連の職」に進ませるだけでなく、学生に寄り添いながら一人一人の適正に応じた進路選択への支援を引き続きお願いしたい。

II 各評価項目について

1 教育理念・目的・人材育成像

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学校法人白藤学園の開学者である越智宣哲先生による建学の精神「敬身・敬学・敬事」を基本とし、人格的・知的・情緒的に優れた幼児教育者及び児童福祉従事者を養成することを目指す。開講科目の70%以上を演習・実習科目として設定し、必要な専門的知識と技能を在学2年間で修得する。上記事項は、学則、学生便覧、学校案内パンフレット等各種広報誌、学院HPに記載しており、学外への公表、本学教職員や法人役員に対しても公表している。 ・教育目標を達成するため、少人数制による教育、幼稚園・保育所・こども園・福祉施設との連携を密にした実習指導を実践。公営ホール(なら100年会館)における表現活動発表会などを通して、学生個人が目標を持って活動できるような実践的取り組みを実施している。 ・令和4年度卒業生は、卒業資格100%、幼稚園教諭二種免許状取得率100%、保育士資格取得率100%であり、就職希望者の就職率も、100%であった。
学校側の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人として通用するための言葉遣い、礼儀正しさ、服装、誠実・勤勉さなどがしっかり身に付くよう、教員全体で指導を行った。

	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数であることを生かして、「教員の指導が手厚く、身近に相談できるのでよい。」などいった学生からの意見があった。 ・幼児教育に対して熱い眼差しをもって講義や実習を確実に受け、即戦力として現場で実践できる力を身に付けることの大切さを伝えている。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・不適切な保育者の関りがクローズアップされているが、根本的に社会人としての基本姿勢の無さが原因であろう。ニュース等で保育士が園児に虐待行為などを行ったという報道もあったが、ちょっとした関係の崩れの中でエスカレートしていく。保育士の仕事はチームで行うため、職場内の人間関係は重要であり、チーム一丸となって同じ目標をもって頑張っていくべきである。 ・思いや能力、考え方など人それぞれ違うが、一人で抱え込むのではなくチームとしてコミュニケーションをとることのできる環境や関係性が大切である。「即戦力として現場で実践をできる力を身に付ける」と学校の取組にあるが、身に付けた知識や経験を現場で活かしていくことのできる力をさらに深めていく必要がある。

2 学校運営

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学園の目標に基づき、学校運営方針を明確に定めている。学校運営方針は年度当初に明示し、職員間で周知されている。また、必要な諸規程も整備できている。 ・運営組織や意思決定機能は、学園運営組織表・校務分掌で定めており、組織の構成員・職務分掌と責任を明確にしている。 ・領域に対応出来る教員の確保については、設置基準等の定めるところを遵守し、必要人員を配置している。処遇等については、「目標管理制度」を実施し、その結果に基づき人事考課を行っている。人事考課の結果は、翌年度の賞与支給に反映させている。 ・教職員一人一人が校務用 PC を持ち、事務の効率化につなげている。 ・コロナ禍以降、遠隔授業を行うための環境を充実させている。 ・効率的な学生管理を行うため、学生管理システムとして BLEND を導入している。
学校側の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学園内の施設予約・管理・他部署との情報共有と確認作業が適時行えるシステムを導入し、業務の効率化に繋げている。また、Wi-Fi 環境の充実を図り、講義にインターネット環境を使用する場合もスムーズに指導が出来ている。 ・幼児教育者養成校なので、できる限り実践力を身に付けるため対面授業を基本とし、感染防止を意識した環境で講義を行っている。また Zoom 等を利用しての授業展開を行ったり課題提示及び提出にも ICT を活用したりするようにした。 ・今年度は、コロナ感染者はいたが、保健所からの指導により、濃厚接触者の特定の必要も求められなくなり、休校措置の実施もなかった。

委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいことを取り入れて運営いただいております、教育活動の様子が十分に把握できる。 ・コロナウイルス感染症拡大の状況下で、授業の在り方など、様々な制約を受けていたが、コロナ禍の中で工夫したことが、上手く活用できている。 ・コロナ禍においても人との関り、いわゆるコミュニケーション力育成が大切である。学院では実践力を身に付けるための授業も工夫して行われている。
---------	---

3 教育活動

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標・育成人材像は、本学に対応する人材ニーズに正しく方向付けられており、十分な内容で定められている。 ・カリキュラムは、文部科学省及び厚生労働省の通知に基づき目標達成に向けて体系的に編成されるよう、監督官庁のシラバスモデルに基づき適正な対応を行っている。 ・目標とする資格はカリキュラム上で明確に定めており、幼稚園免許・保育士資格取得を支援する教育内容となっている。 ・成績評価・単位認定の基準は学則に明記しており、その内容に則った成績評価・単位認定の方法及び基準を各教科のシラバスに記載している。実践力向上のため、関係科目における担当者間の情報交換を行い、適切に対応している。 ・常勤・非常勤ともに、採用時には履歴書及び教育研究業績書の提出を義務付けている。文部科学省による資格審査に合格し、育成目標に向けた授業を行うことができる教員を確保している。教員の資質向上に向けて、学会や研究発表、研究紀要の執筆等を更に奨励していく。 ・授業を客観的に評価・分析することを目的として学生による授業評価アンケート（Web）を実施している。アンケートの集計結果は各教科担当教員へ報告し、授業改善を促すとともに、学校関係者評価委員会においても報告している。
学校側の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・実習先で保育者への志望意識を涵養できるよう、学校での実習事前事後指導にも力を注ぎ力量を身に付けさせている。 ・授業評価アンケートを実施し、その結果をもとに、教員のコメントを有効活用し、各教員の授業力を向上させるようにしている。 ・研究活動については、発表や研究紀要（第20号発刊予定）への投稿により、各教員がしっかりと取り組むようにしている。 ・職員は、実績のある教員を継続雇用し、授業の指導を行っている。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・実習後、学生がどのような力を身に付けたのか、何を学んだのか、といった事後の振り返りを学院の中で終わらせるのではなく、何らかの方法で、（実習した）現場へ返していくことも連携としては大切である。園と学院が事後の連携をしていくことで、「顔の見える関係」をつくり、実習指導上の具体的な成果を上げていくことに繋がる。 ・保育は勘と経験だけでできるものではなく、職業訓練的な要素も強い

	<p>が保育の専門的な知識に裏付けられた保育の「リテラシー力」を身に付けて欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の研究活動も皆のモチベーションを高めていくための取組の一つである。無理のない形で専門性を深めてもらいたい。
--	--

4 学修成果

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格に関しては、取得率の向上に努めており、取得者数とその推移に関する情報は明確に把握している。 ・令和4年度卒業生は、全員が卒業資格を有し、幼稚園教諭二種免許取得率・保育士資格取得率共に100%であった。また、関係職への就職希望者の就職率は、100%である。 ・就職率については、その推移に関する情報を明確に把握しており、次年度以降は、データベース化にも取り組んでいきたい。 ・担任制をとり、学年担当が個々の学生の相談及び指導にあたっている。各授業の様子や欠課時数については教務を中心に、常勤・非常勤すべての教員間で共有し、連絡を密にとる体制を整えている。 ・保育・教育実習、法人内の園行事でのボランティア活動等を通じて、教育・保育・福祉の現場からの学生に関する評価を把握している。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により学外ボランティア活動が十分実施出来なかったが、今後、コロナ禍の法的な分類が変更されるに伴い、学生の学内外でのボランティア活動等について、積極的な活動支援を行っていく必要がある。
<p>学校側の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・養成校として現場での実践力を身に付けるために、実習科目等の指導内容の充実に力を入れるようにしている。 ・2月末現在436件の求人が届いている。今年は、新型コロナウイルス感染症の影響は多少あるものの、就職担当教員を中心に学生に積極的に就職活動についての働きかけを行った。就職希望園への見学や就職説明会も順調に行われ、学生それぞれが希望する園への就職活動を行うことができた。 ・就職先については、就職内定者から担当教員へ随時報告がなされているが、内定通知が出た後も4月の着任に向けて順調にスタートできるよう、準備期間におけるアドバイスも個々に行っている。 ・実習先巡回訪問は、今後も継続して行い、実習がスムーズに実施できるようサポートしていく。 ・表現活動発表会は入場者を制限し、感染対策を万全にして開催した。 ・附属幼稚園だけでなく、保育園からの参加もあった。来年度は130周年記念事業としての位置づけや法人内に幼稚園・保育園・こども園の3園が開園するキックオフイベントとして学園全体で、広く保護者や地域も巻き込んだ発表会として、学生の深い学びの場としていきたい。

委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動を行うにあたって、学生がいつでも就職情報を身近に素早く閲覧し、マッチングできるようにデータベース化しておくことはよいことだ。 ・就職することの重要性と同時に若手保育者の離職率も高いため、「離職のデメリット」の部分も在学中にしっかり伝えていくことが大切である。
---------	---

5 学生支援

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の就職・進学指導に関する体制（キャリア担当）を整備し、就職・成績・生活面等、随時個人面談を実施している。また、成績不振学生の保護者には督励文書の送付や担任面談を実施しており、その他指導または配慮を要する学生の保護者にも必要に応じて連絡・面談を実施し、面談結果は、文書に残し保管している。 ・学費に関する支援体制は、奨学金制度、学費分納制度、緊急時貸与制度を整備している。奨学金制度は、日本学生支援機構を利用している。 ・学生の健康管理体制は、学園共有の保健室に養護教諭が常駐しており、学院の教員と連携しながら対応している。学院内にも簡易なベッドを準備し、短時間の安静で快復できる場合は教員等が付き添いながら健康観察を行っている。 ・新型コロナウイルス感染症関連では、実習前に PCR 検査を受検し、陰性を確認した学生のみが実習を実施するように対応している。 ・卒業生への支援体制は、同窓会組織があり、定期的に総会や役員会を開催している。
学校側の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・同窓会組織については、HP とアプリを利用して情報を提供している。スマホにアプリを無料ダウンロードして使用することができる。保育学院の情報・学園の情報を通知し、同窓会情報・求人も発信している。 ・またグーグルクラスルームを活用して、授業の時間中だけでなく、課題の提示や提出、日々の学生への連絡等にも活用している。 ・Zoom を使ったリアルタイム配信を充実させ、施設実習前のオリエンテーションや就職説明会（先方の指示による）、授業をオンラインで行うなど、学生が効果的な活動をできるように支援している。 ・少人数を生かして、個々の学生の体調管理には常に気を付けるようにしている。顔色が優れなかったり、高熱や風症状がみられたりした場合は、早めに声掛けを行い、大事に至らないように教員間で情報共有も行っている。 ・体調を崩して欠席が長期に続いたり無断欠席が続いたりした場合は、担任から本人や家族に連絡を取り安否確認をするようにし、特に一人暮らしの学生の支援をきめ細かに行うようにしている。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の法による位置づけが「5類感染症」となる。その状況に応じて実習前PCR検査受検等についても再考し、それぞれが負担の無いように対応していくとよい。

6 教育環境

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は全校舎とも耐震基準を満たしており、適切にメンテナンスも実施している。セキュリティ管理は、監視カメラの設置、警備保障との契約、通用口の施錠、侵入防止扉等を設置している。今後も安全管理に関する意識向上に努め、危険及び事故防止に努めていく。 ・大規模地震に対応した消防防災訓練実施マニュアルを学園として作成しており、学園防災避難訓練を定期的実施し、危険物等の管理も徹底している。防災備蓄については、定期的に補充・管理しており、災害への備えを万全にすべく現在も体制を整えている。 ・実習に関しては、学外の関係機関と連携して十分な教育体制を整備しており、事前事後指導を徹底し、指導にあたっている。
<p>学校側の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年10月末に学院同窓会からも援助をいただき、学生の机と椅子を長年使用してきた旧 JIS 規格から新 JIS 規格の物にすべて入替を行った。時代の流れとともに、教科書や紙のサイズもB版からA版が主流となってきており、学生もゆったりと学びに向かう環境を整えた。 ・学生による自主的な清掃だけでなく、事業者等による床磨き等のメンテナンスを行い、清潔な環境で学習に取り組めるようにしている。 ・本学の幼稚園への教育実習が2回生の6月と10月実施という非常に遅い時期の実習となっていることから、早期に就職活動を開始するため、1回生の11月と2回生の6月に幼稚園への教育実習を行うようカリキュラムを変更していく。 ・授業回数については、教務が工夫をして規定時間数を確保している。リカレントで入学した社会人や子育てとの両立中の学生もいることから、平日の遅い時間や土曜日等の補講をできるだけ回避し、学生への負担ができるだけ少なくなるよう配慮し時間割を組んでいる。
<p>委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・きれいな環境の中で学ぶことはよい。 ・学生にとって良い環境は、指導する教職員にとっても良い環境である。

7 学生募集と受入れ

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は日程調整を重ね、次年度の入学者獲得に向けて広報活動を継続している。学校案内は志願者や保護者の立場を考慮した内容となっており、問合せや相談への対応は、広報担当教員が適切に行っている。 ・入学者選考は公平性を保つために全教職員が関わり、筆記試験及び面接の結果を踏まえて総合判定している。志願者数は年度による増減が見込まれるため、少子化や大学・短大志向の影響・高等教育無償化を考慮し、高校訪問の回数・進路相談会等への参加を強化している。 ・昨年度導入を開始した総合型選抜（AO）を今年度も実施した。 ・学納金は、他の大学・短期大学・専門学校と比べて安価であり、学生・保護者の負担は少ない。
-----------	--

<p>学校側の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会人経験者は学生間でリーダーシップをとり学生と良好な関係を築こうとしている。 ・ 進学情報媒体の内容等について、応募実績を検討の上、本学の特徴である就職実績、実習指導、学生との関わり等を積極的にアピールして学生募集に繋げていきたい。 ・ 在学生からの聞き取りで、本学の選定基準は「授業料が安価であることや駅に近いこと、就職率が高いこと」との結果が出ているが、教員の質や学修内容等、それ以外のアピールポイントを全面に押し出し、対応をしていくようにしている。 ・ 高等教育無償化の影響が大きく出てきており、寮に関しては特に遠方からの受験者が激減している。白梅寮の来年度入寮予定者は、30名から13名に激減している。 ・ 総合型選抜の充実で今年度の受験生は21名が合格となった。今後も募集方法の多様化に対応していく。 ・ 奈良県の雇用政策課の職業訓練の委託事業を受託した。今年度の4月入校に向けて準備を進めているところである。
<p>委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人生100年時代と言われライフスタイルにも変化が起きている。リカレントで学びなおしを希望する学生も今後増えていくだろう。 ・ コロナ禍でより一層少子化が進んできている。学生確保に向けてシフトチェンジを行い、より効果的な広報活動に取り組む必要がある。

8 財 務

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 財務基盤は必ずしも安定しているといえず、学園全体の財政基盤を確立させるため、引き続き学生の定数を確保していく必要がある。 ・ 年度予算は、教育の充実と費用効果等を勘案し、適切に編成および執行しており、会計監査人及び監事の監査は、定期的かつ適切に行われている。 ・ 財務状況の公開については、学園HPにて公開しており、その他必要に応じて開示している。
<p>学校側の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 財務管理は法人が厳正に行っている。今年度の本学院の定員数は充足されているが、来年度の入学予定者数は減少しており、学園全体としての財務状況は依然厳しい。教育を取り巻く状況は日々変化していく中、法人の幼稚園・高等学校・保育学院組織が一丸となって対応していく。 ・ 入学者数により学園全体の財政に影響が出るため、定員確保に向けて今までの方法をさらに見直し、さらに効果的な広報活動をしていく。 ・ HPを刷新し、情報を具体的にわかりやすく発信していく。
<p>委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし

9 法令等の遵守

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法令や設置基準は遵守している。 ・ 学校が保有する個人情報に関する保護対策及び教職員への周知徹底
-----------	---

	<p>は出来ている。学生に対しては、SNS等への書き込み・メディア機器を通じた情報流出が社会問題となっていること、特に学外関係機関で知り得た情報を意図の有無に関わらず流出させた場合には、懲戒処分に値する旨を学生便覧へ追記し、その重大さと守秘義務を教授している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学園共通の職場におけるハラスメント防止に関する指針を策定し、相談マニュアルを作成している。 ・自己点検・自己評価を定期的実施し、問題点の改善に努めている。学校関係者評価委員会にて評価を実施し、評価結果概要及び報告書を毎年HP上で公開している。 ・教員養成校としての文部科学省の基準を確実に守っていく。
学校側の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSの使用については、入学時に学生へ同意確認を採っている。実習前には、オリエンテーション及び事前指導において、指導を徹底している。 ・実習開始2週間前から学生に体調管理表・行動履歴を作成させて、実習先に提出することも実施している。またPCR検査を受け、陰性確認を行い実習に参加している。 ・授業時数は教務が確実に調整を完了している。資格取得においても法を遵守しながら申請している。 ・SNSについては実習先での不用意な発信、園児のプライバシー保護も考え、行動するよう指導している。また学校がSARTRASに補償金を支払い著作権の保護に抵触しないように対応している。 ・前年度の文科省の指導により、コアカリキュラムの編成を再考した。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし

10 社会貢献・地域貢献

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援センター・地域の催し参加・出張公演等・ボランティア活動の積極的な参加を促進・奨励しているが、関係機関と相談の上、中止または延期の措置をとらざるを得なかった。学生の活動はHP等を通じて広く公開している。学校は、社会への情報発信や地域活動の拠点としての役割も担っていることを認識し、活動に取り組んでいく。 ・学園全体として環境問題への啓蒙活動を実施している。学園周りの花壇の整備や空調の温度管理も実施している。
学校側の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、学園周りの花壇の花植えや保育園の花植えを学生が園児と一緒に水やり等も当番制にして、学生が進んで手伝いをするようにしている。 ・今年度は地域の催しへの積極的参加を促したり地域貢献を果たしたりしていくことが叶いにくかったが、次年度は計画的に参加を促したい。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし